

令和5年度

学校評価報告書

<学校評価結果のとりまとめ>



学校教育目標

『心身ともに健康で 人間性豊かな たくましい子どもの育成』

めざす子ども像

「正しく 強く はつらつと」

- よく考え進んで学ぶ子(知育)
- 心豊かな思いやりのある子(徳育)
- 健康でたくましい子(体育)

山梨市立後屋敷小学校

1 学校評価について

令和5年度 後屋敷小学校学校評価について

(1) 学校評価の目的

- ①学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、めざすべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに保護者、地域住民等から理解と参画を得て学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

(2) 学校評価に関する規程

①学校教育法

平成19年6月に学校教育法を改正し、第42条において学校評価に関する根拠となる規定、第43条において学校の積極的な情報提供についての規定がされている。

【第42条】 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

【第43条】 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

これらの規定は、幼稚園(第28条)、中学校(第49条)、高等学校(第62条)、中等教育学校(第70条)、特別支援学校(第82条)、専修学校(第133条)及び各種学校(第134条第2項)に、それぞれ準用する。

②学校教育法施行規則

上記の学校教育法第42条の規定を受けて、学校教育法施行規則を平成19年10月に改正し、自己評価の実施・公表(第66条)、保護者など学校関係者による評価の実施・公表(第67条)、それらの評価結果の設置者への報告(第68条)について、「文部科学大臣の定めるところ」の内容について規定した。

【第66条】 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

【第67条】 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く。)による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

【第68条】 小学校は、第66条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

これらの規定は、幼稚園(第39条)、中学校(第79条)、高等学校(第104条)、中等教育学校(第113条)、特別支援学校(第135条)、専修学校(第189条)、各種学校(第190条)に、それぞれ準用する。

(3) 後屋敷小学校の学校評価の目的

学校評価は、それ自体が目的ではなく、あくまでも学校の教育目標の実現に向け、教育活動がどこまで有効に行われたかを見直し、教育の水準の向上を図るための手段である。そして、学校評価は、「子どもたちの変容(よりよい成長)」をめざしたものでなければならない。「子どもたちの変容」こそが学校改善の中心となると考える。

学校評価の具体的な目的は次の3点となる。

- ①組織としての学校がどのように機能しているのか、つまり、どのような目標・計画・実施により、どのような成果を挙げたのか、また、課題を解決するためにどのような改善が必要なのかを明らかにすること。
- ②学校における教育活動やその評価結果について保護者や地域の方々に説明し、様々なご意見をいただくことによって、開かれた学校づくりを推進し、一層の学校改善に向けての組織的な取組につなげていこうとすること。
- ③学校、家庭、地域の果たすべき役割を認識し、双方向の連携による教育の充実をめざすこと。

本校では、2学期に学校評価を実施する。この時期に学校中間評価を実施し、1年の折り返し点にあたりこれまでの成果や課題を全員で確認し合い改善へ向けて取り組みたい。(P→D→C→A マネジメントサイクルの実践)
それぞれ、速やかに集計・分析を行い、改善に向けて次の目標や具体的な教育活動に反映していきたい。

(4) 学校評価の形態

平成 22 年 7 月 20 日に改訂された学校評価ガイドラインを参考に、本校での学校評価の実施手法を(1)自己評価と(2)学校関係者評価の2つの形態にする。

①自己評価

自己評価は、学校評価の最も基本となるものであり、校長のリーダーシップの下で、本校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行う。

②学校関係者評価

- ・学校関係者評価の評価委員は、学校運営協議会委員 7 名（除学校職員）とする。
- ・学校関係者評価は学校評価委員が、学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本とする。
- ・教職員による自己評価と学校評価委員による学校関係者評価は、学校運営の改善を図る上で不可欠のものとして、有機的・一体的に位置付ける。

③児童・保護者対象のアンケート(外部アンケート等)

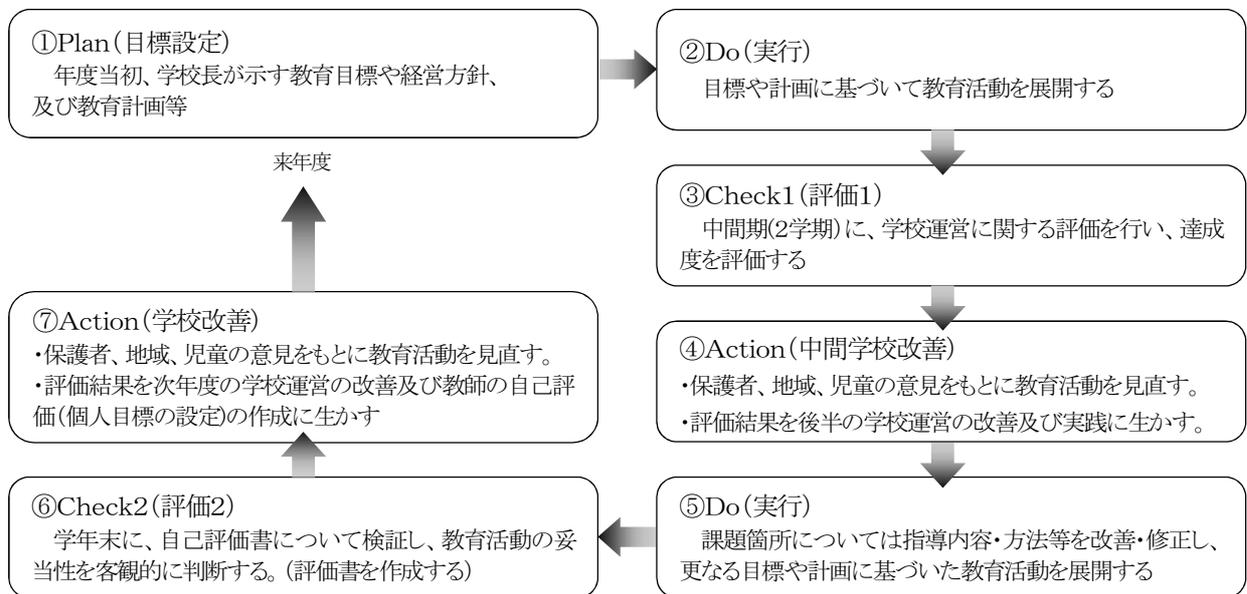
自己評価を行う上で、児童や保護者を対象とするアンケートにより児童・保護者がどのような意識をもっているかを把握する。

④学校の第三者評価

学校教育法に規定されている学校評価の一環として、学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、教育活動その他の学校運営の状況について、専門的視点から評価を行う。(努力目標であるため実施せず。)

(5) 学校の評価システムについて

①学校評価の流れ



以上のように教育の質的向上をめざし、保護者や地域との更なる信頼関係の確立を図るため、P→D→C→A のマネジメントサイクルを継続的、計画的に実施していく。

(6) 本年度の学校評価

①目標設定に関わって

学校教育目標

『心身ともに健康で人間性豊かなたくましい子どもの育成』

めざす児童像

「正しく強くはつらつと」

- よく考え進んで学ぶ子(知育)
- 心豊かな思いやりのある子(徳育)
- 健康でたくましい子(体育)

※目指す児童像を右のように捉え、それを目標評価に対する児童の具体的評価規準像ともしていく。

正しく

- ・自分や他の人の行動について善悪の判断ができる。
- ・正しい行動ができる理想の人がイメージできる。
- ・思いやりを持って人に優しくできる。

強く

- ・自分に厳しく、他に優しい。
- ・苦難に負けず強い意志を持ってやり抜く。
- ・理想に向かって努力できる

はつらつと

- ・明るく、元気、はきはきと生活できる。
- ・前向きな姿勢(プラス思考)で積極的に行動できる。
- ・自分のよいところを知り自信を持って物事に挑戦する。

②本年度の最重点について

めざす児童像実現に向け、教師の支援のもと、児童一人一人に主体的に目標を持って取り組ませていく事が大切である。その際、児童-教師の関係や教師-教師の関係がよりよいものであることが大変重要となる。そこで、「笑顔の後屋敷小」をキーワードとして、みんなが笑顔になれる学校を目指して教育活動をすすめていく。

特に、「学力の向上」と「適切な児童理解」について取り組み、児童一人一人が笑顔で登校できる学校づくりを目指していきたい。

③児童の努力目標について

児童の努力目標を次の4点とし、それらを支援すべく、教師の支援、指導の取り組みを粘り強く展開し、継続していく。

- | | | |
|-----------|-------|----------------------------|
| ①学習への取り組み | _____ | ・自分の考えや解決ができたか |
| ②明るい挨拶と生活 | _____ | ・誰にでも明るく振るまえたか |
| ③思いやりの心 | _____ | ・(もし自分だったら)と相手の立場に立ち考えられたか |
| ④仲間づくり | _____ | ・元気に仲よく遊べたか |

(7) 評価の算定方法

「自己評価」「児童・保護者アンケート」項目のすべてを4段階評価で統一する。4段階は「4…そう思う」「3…どちらかといえばそう思う」「2…どちらかといえば思わない」「1…思わない」を基本とする。

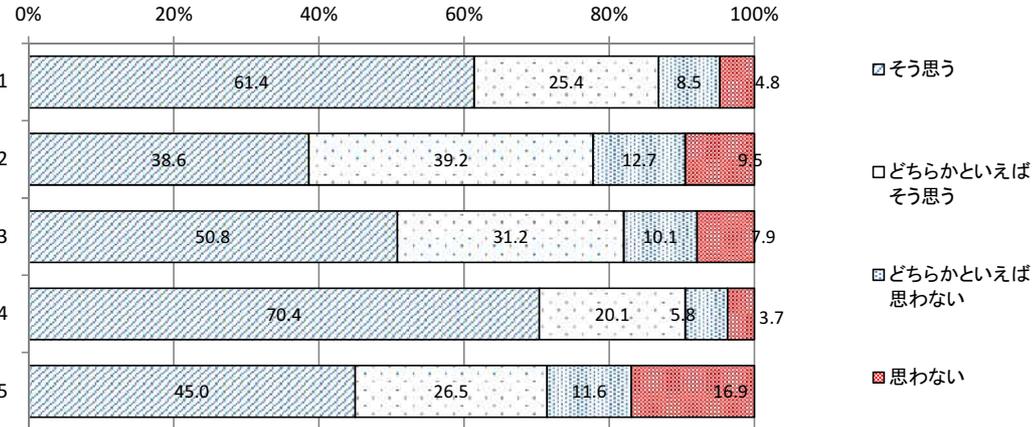
アンケートでは質問内容によって回答をかえる。各質問への回答で、つぎのように平均した換算値(実現率)を求めその率により優先課題度及び優先順位をつける。さらにそれらを5段階評価し、各項目の反省にするとともに今後の方向性の判断基準としていきたい。

評価	換算値	状況と方向
A	3.2 以上～ (80%～)	十分達成していると捉える
B	2.8 以上～3.2 未満 (70～79%)	達成しつつあると考えられ、良好な状況であり継続する
C	2.2 以上～2.8 未満 (55～69%)	指導内容や目標達成状況等について再度吟味し、必要に応じて対策を講じる
D	1.6 以上～2.2 未満 (40～54%)	原因を探り課題を明確にして、指導内容・方法等を改善・修正する
E	1.6 未満～ (40%～)	緊急の学校課題と捉え、全校挙げて問題解決のための具体策を講じる

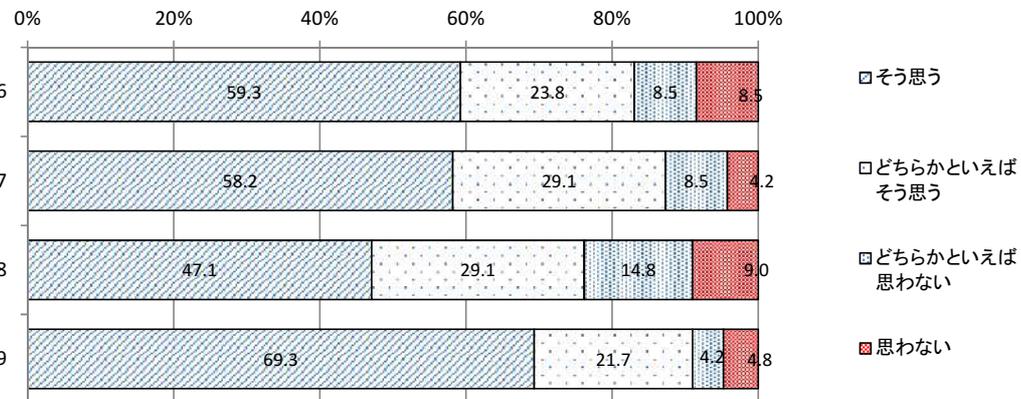
◇児童アンケート集計結果 (9月実施)

アンケート回収率99.5% (189 / 190)

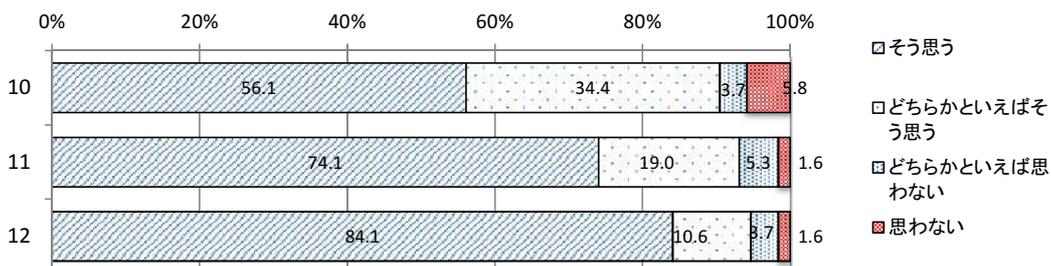
No.	令和4年度	換算値(前年)	実現率	評価
1	学校は楽しい	3.4 (3.6)	85.0%	A
2	勉強するのが楽しい	3.1 (3.2)	77.5%	B
3	進んで学習している	3.2 (3.3)	80.0%	A
4	友達と一緒に勉強するのは楽しい	3.6 (3.7)	90.0%	A
5	英語科の学習をするのは楽しい	3.0 (3.2)	75.0%	B



6	進んで挨拶をしている	3.3 (3.4)	82.5%	A
7	明るい気持ちでいつも生活している	3.4 (3.6)	85.0%	A
8	いつも自分の考えや気持ちを素直に伝えたりしている	3.1 (3.3)	77.5%	B
9	名前を呼ばれたら「はい」と返事をしている	3.6 (3.7)	90.0%	A



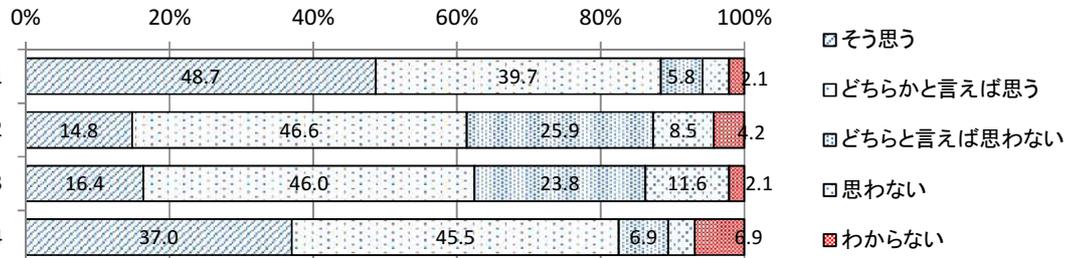
10	いつも相手の立場を考えて過ごしている	3.4 (3.3)	85.0%	A
11	友達と仲良く過ごしている	3.7 (3.7)	92.5%	A
12	休み時間など友達といるのが楽しい	3.8 (3.8)	95.0%	A



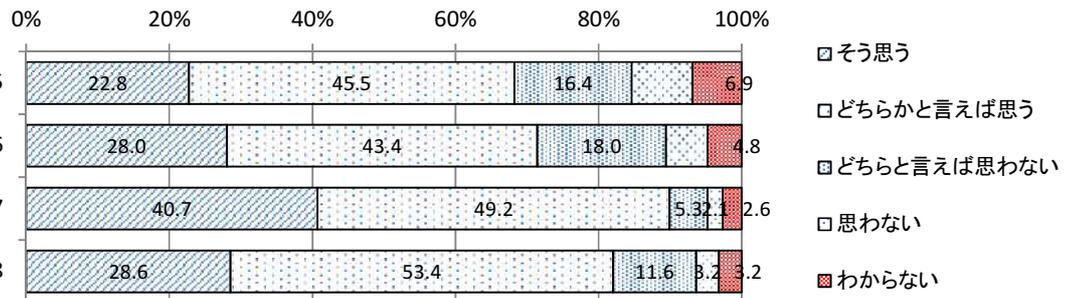
◇保護者アンケート集計結果 (9月実施)

アンケート回収率99.5% (189 / 190)

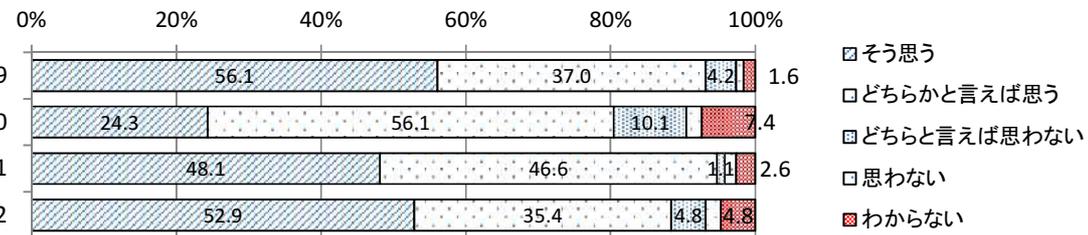
No.	令和4年度	換算値(前年)	実現率	評価
1	お子さんは 学校は楽しいと感じている	3.4 (3.4)	85.0%	A
2	お子さんは 勉強が楽しいと感じている	2.7 (2.9)	67.5%	C
3	お子さんは 進んで学習している	2.7 (2.7)	67.5%	C
4	お子さんは 友達と一緒に勉強するのは楽しいと思っている	3.2 (3.3)	80.0%	A



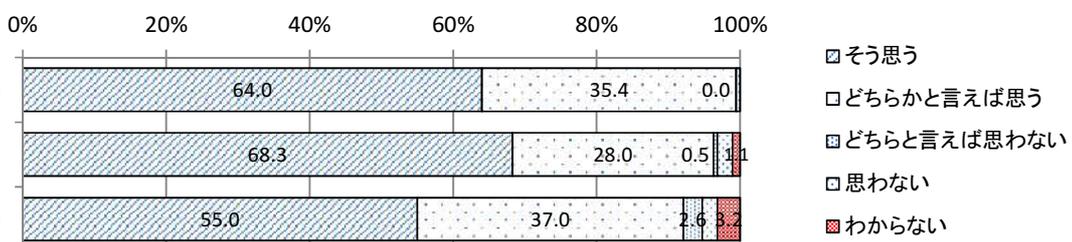
5	お子さんは 英語に興味を持ち、英語科学習を楽しく学んでいる	2.9 (3.1)	72.5%	B
6	お子さんは 進んで挨拶をしている	3.0 (3.0)	75.0%	B
7	お子さんは 明るい気持ちでいつも生活している	3.3 (3.4)	82.5%	A
8	お子さんは いつも 自分の考えや気持ちを素直に伝えている	3.1 (3.1)	77.5%	B



9	お子さんは 名前を呼ばれたら「はい」と返事をしている	3.5 (3.5)	87.5%	A
10	お子さんは いつも相手の立場を考えて過ごしている	3.1 (3.1)	77.5%	B
11	お子さんは 友達と仲良く過ごしている	3.5 (3.5)	87.5%	A
12	お子さんは 多くの友達といることが楽しいと感じている	3.5 (3.5)	87.5%	A



13	ご家庭では 学校や子どもの様子を知るようになっている	3.6 (3.7)	90.0%	A
14	授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る良い機会になっていると思う	3.6 (3.7)	90.0%	A
15	学校は家庭との連絡や保護者・地域に丁寧に対応できている	3.5 (3.5)	87.5%	A



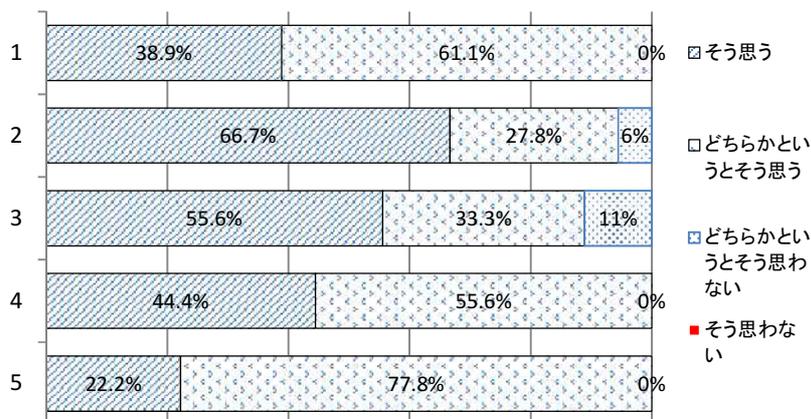
◇自己評価集計結果（学年末実施）

調和の取れた人間形成を図る適切な教育課程

- (1) 児童がめざす子ども像に育つよう取り組んでいる。
- (2) 年間指導計画にしたがって、学習指導を行うことができる。
- (3) 授業時数が確保できている。
- (4) 指導方法を改善・工夫しながら取り組んでいる。
- (5) 教育課程の工夫と改善により、英語科教育の充実に努めることができる。

()内は昨年度

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
1	3.4 (3.4)	85.0%	3.4 (3.8)	85.0%	A	○昨年度の換算値と比較すると0.2～0.4ポイントの落ち込みは見られるが、評価としては全てA評価を示している。教育課程実施にむけて、教師が気をつけて進めてきた結果が表れている。
2	3.5 (3.3)	87.5%	3.6 (3.6)	90.0%	A	
3	3.5 (3.5)	87.5%	3.4 (3.7)	85.0%	A	
4	3.4 (3.4)	85.0%	3.4 (3.6)	85.0%	A	
5	3.4 (3.1)	85.0%	3.2 (3.3)	80.0%	A	



○英語については、特区ではなく3年生以上は担任ではなく英語の担当の先生が授業から評価まで行うと指導の質が保たれ、打ち合わせ等の担任の負担も軽減できる。今後も教育課程に沿って指導を進めていきたい。
 ▲授業日数・時数、水泳学習、英語教育など来年度変更となることがあるので、計画立てと計画遂行をしっかりとっていく必要がある。

【来年度に向けて】

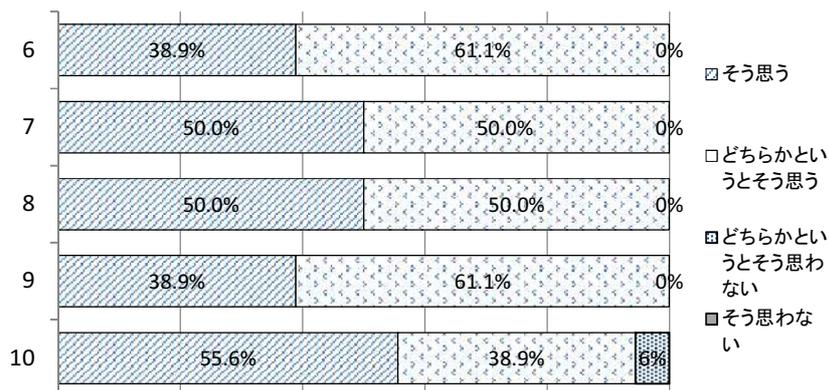
○教科書が改訂されることと授業日数が少なくなることが決まっているので、授業時数の確保や行事の見直しを進めていく。ただし児童の学校生活が充実できるように改善することが大切になる。

確かな学力の向上

- (6) 指導の内容を明確にし、基礎・基本を確実に定着させる授業実践をしている。
- (7) 一人一人の児童のやる気を引き出すような各教科指導に心がけている。
- (8) 児童が自分の考えや気持ちを素直に表現できるよう工夫している。
- (9) 特性のある児童の実態に応じて、指導計画を立て指導方法や環境の工夫をしている。
- (10) 一人一台端末を授業に効果的に取り入れるなど、ICTを有効活用している。

()内は昨年度

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
6	3.5 (3.4)	87.5%	3.4 (3.6)	85.0%	A	○中間期と比べ換算値で0.1～0.2ポイント上昇が見られる。1回目の評価以降、学力の向上に向け先生方が意識して取り組んでいる様子が分かる。ICT活用について有効活用がまだできていないと感じている教師がいるので改善を進めたい。
7	3.4 (3.4)	85.0%	3.5 (3.4)	87.5%	A	
8	3.4 (3.4)	85.0%	3.5 (3.4)	87.5%	A	
9	3.2 (3.2)	80.0%	3.4 (3.2)	85.0%	A	
10	3.3 (3.2)	82.5%	3.5 (3.6)	87.5%	A	



○学力向上の取り組みについて、クラスの雰囲気作りが大切であるという事に気づいたので、ペアやグループ、アイスブレイクなどを行う。

▲ICTの効果的な活用については校内研での研修等もあり底上げができてきている。ただ、ICTの活用によって学力向上に繋がっているのか、後小ノートの学年に応じた在り方をどうしていくかなどを今度確認していく。

【来年度に向けて】

○ICTの活用と教科書やノートの活用や使い分け、デジタル教材活用の充実など検討していく。

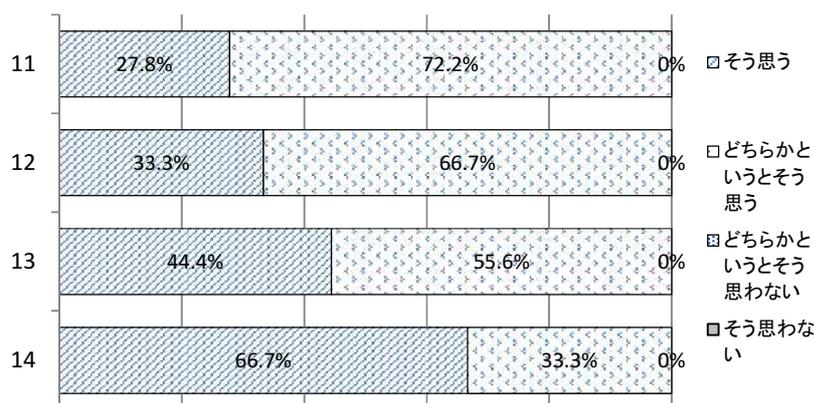
○学力を身に付けるための土台作りとして生活習慣、心の健康、居心地の良い学級づくりなどを整える。

豊かな人間性を育み、心の安定を図る生徒指導

- (11) 望ましい学年・学級集団に近づいている。
 (12) 児童は友達や教師との人間関係もうまくいき心身の健康が保たれている。
 (13) 児童は互いに認め合い明るく元気に活動している。
 (14) 児童理解を深め、心身の問題の早期発見、早期対応に努めている。

()内は昨年度

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
11	3.2 (3.3)	80.0%	3.3 (3.2)	82.5%	A	○中間期に比べ、(11)と(14)が換算値が上昇している。Q-Uやいじめアンケートの活用や毎週末の児童情報交換などの取り組みにより、教職員が児童理解や問題の早期発見等に努めた成果だと考える。
12	3.3 (3.1)	82.5%	3.3 (3.2)	82.5%	A	
13	3.4 (3.2)	85.0%	3.4 (3.3)	85.0%	A	
14	3.5 (3.6)	87.5%	3.7 (3.7)	92.5%	A	



○心の安定を図るためには、保護者との関係を大切にすることが大切だと感じる。

▲個人と話す時間を設定し、全員と話す時間をとっていきたい。普段忙しく時間がとれないので、確実に話せる時間をつくる必要があると思った。

【来年度に向けて】

○今年度同様に、職員間での生徒指導上の情報共有や研修会の実施。一人で抱え込まず、ケース会議などチームで対応できるようにしていける体制の充実を進める。児童の情報交換を頻繁に行っていく。

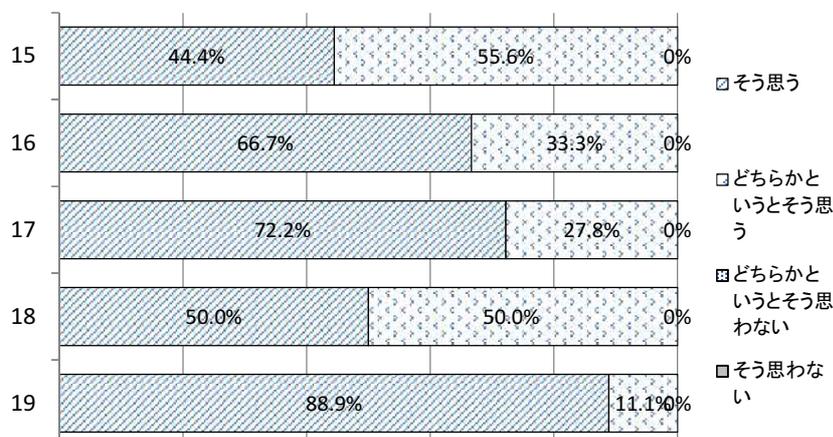
○Q-Uや生活アンケート、心の健康観察などを活用し、そのデータを児童理解と生徒指導に役立てる。

体力・健康・安全に関する指導の充実

- (15) 体力・健康・食に関する指導に努めている。
 (16) 毎日の学校生活が明るく元気に過ごせるよう保健・安全の配慮がされている。
 (17) 生活安全、交通安全、災害安全について計画的に指導している。
 (18) 心身の健康を保障し児童にとって良き環境である。
 (19) 感染症や熱中症など十分配慮して対応している。

()内は昨年度

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
15	3.3 (3.1)	82.5%	3.4 (3.5)	85.0%	A	○全ての項目について中間期より換算値が上昇している。各安全担当を中心に教職員が協力して取り組んできた成果が表れている。熱中症やインフルエンザやコロナウィルスなどの感染症など多く発生することがなく学校生活を送ることができた。
16	3.6 (3.4)	90.0%	3.7 (3.6)	92.5%	A	
17	3.4 (3.2)	85.0%	3.7 (3.5)	92.5%	A	
18	3.4 (3.2)	85.0%	3.5 (3.3)	87.5%	A	
19	3.8 (3.6)	95.0%	3.9 (3.4)	97.5%	A	



○身体測定の時の保健指導がありがたい。今後もお願いしたい。

▲長年、市にも要望していると思うが児童トイレをなんとかしたい。水漏れ等もあり、使用できる洋式が少なすぎて、児童が安心して生活できているか不安になる。

【来年度に向けて】

○児童トイレの洋式化や水漏れについて修繕や市教委への要望等で改善を図る。

○体力テストの課題から、改善できる取組を行っていく。また、運動をしない児童に対して運動の機会を増やしていきけるような取組を考えていく。

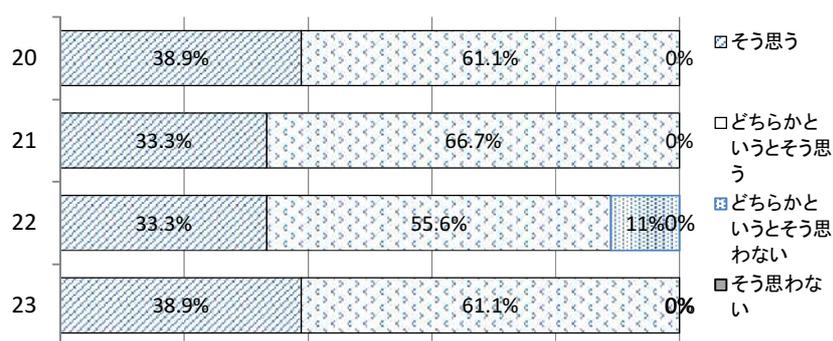
○感染症や熱中症などの状況把握と速やかな対応を進める。

開かれた学校づくり

- (20) 家庭や、地域と信頼ある連携が図られている。
 (21) 学校開放日や学年部会、地区懇談会等を活用し、情報交換が図れている。
 (22) 地域素材の教材化及び家庭や地域社会の人材活用が有効に行われている。
 (23) 学校運営協議会を通して、学校と地域が結びつき、教育問題の改善が進められている。

()内は昨年度

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
20	3.2 (3.2)	80.0%	3.4 (3.4)	85.0%	A	○3つの項目で中間期より換算値が上昇している。コロナが5類へ移行後、学習や行事等で制限がなくなり、外部講師を呼んだりコロナ以前の活動を再開したりすることができている。
21	3.2 (2.9)	80.0%	3.3 (3.1)	82.5%	A	
22	3.0 (2.8)	75.0%	3.2 (3.3)	80.0%	A	
23	3.4 (3.2)	85.0%	3.4 (3.3)	85.0%	A	



○心の安定を図るためには、保護者との関係を大切にすることが大切だと感じる。

▲2年生の野菜作りや3年生の総合などに新たに地域の方をお願いしていくこともできる。しかし、担当が探すとなかなか難しいので課題だと感じる。

【来年度に向けて】

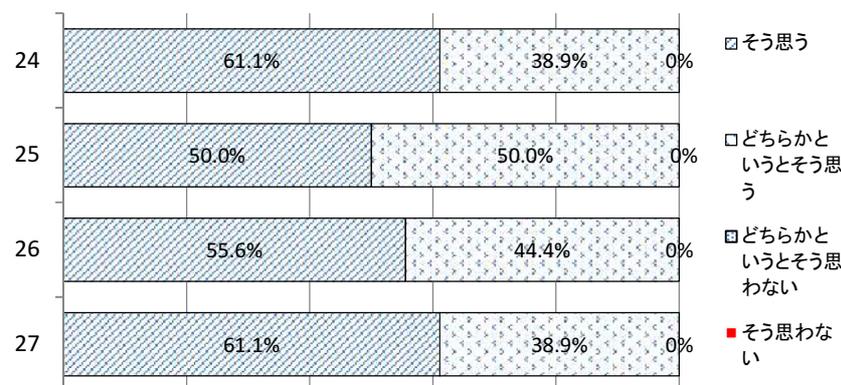
○開かれた学校として地域と結びついていくことは大切なので、学校運営協議会や公民館を活用して地域人材の協力体制を構築していく。

教職員としての力量を高め、信頼される学校づくり

- (24) 教職員が互いに共通理解を図り、協働体制で学校運営の一翼を担っている。
 (25) 進んで研究と修養を重ね、自己の資質及び能力の向上に努めている。
 (26) 保護者との連携に努め、相互に協力し合い児童の育成にあたっている。
 (27) 働き方改革を踏まえ、学校行事などの精選や学校運営の軽減化に努めている。

()内は昨年度

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
24	3.6 (3.4)	90.0%	3.6 (3.3)	90.0%	A	○3つの項目で中間期より換算値が上昇している。教職員の協働体制や研究と修養については高いポイントを示している。保護者との連携や学校の業務改善など教職員で共通理解して取り組んでいるため実現率も高い。
25	3.4 (3.4)	85.0%	3.5 (3.4)	87.5%	A	
26	3.5 (3.5)	87.5%	3.6 (3.3)	90.0%	A	
27	3.5	87.5%	3.6	90.0%	A	



○今年度と同様に、職員間の情報交換等を大事にして、連携をとりながらすすめていく。

▲学校内で問題のある児童について、ケース会議を行いたい。

【来年度に向けて】

○学校から地域へ積極的な学校教育活動の情報公開を図る。

○保護者・地域との働き方改革を踏まえた協力体制をさらに構築し、問題や課題を共有し、子供たちのために協働していけるような体制を作る。

○学力向上や児童理解に努め、学校が児童にとって豊かで安心安全な居場所となるよう職員同士や保護者との連携を高めていきたい。

その他の意見(改善案)

- 柔軟かつ大胆な考え方で、働き方改革を大きく前進させたい。その成果として、教員に余裕が生まれ、それが優れた実践に繋がり、最終的に児童に還元されることになる。
 ○親子活動を今後はどのようにしていくのか、検討する必要があると感じる。
 ○登下校の際、子どもたちを見守る方々の存在・協力体制づくり。
 ○働き方改革を念頭においた業務改善等を進めながらも、子供たちにとっての学習や健康・安全等を第一とした考慮や判断を大切にしていけるとよい。

□ 来年度の後屋敷小教育の改善にむけて

調和の取れた人間形成を図る適切な教育課程

■児童・保護者アンケートから

「学校は楽しい」の質問に対して、児童は86.8%、保護者も88.4%が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答しています。また、①「友達と仲良く過ごしている」②「友達といることが楽しい」は、児童①93.1% ②94.7%、保護者①94.7%②88.3%が肯定的な回答をしています。コロナウィルスが5類に移行し感染対策や生活様式もコロナウィルス流行前の状態に戻りつつあります。児童の交流も多くなり、学校に満足感を持ち、明るい気持ちで登校しているという実態がうかがえます。そして、学校生活を楽しいと感じる要素として、良好な人間関係があげられます。一部の楽しさを感じられていない児童のためにも、さらにより良い人間関係を築いていく必要を感じます。

■自己評価から

①から④の項目で実現率が85.0%を超える数値を示しています。また、今年度から英語の授業は4～6年学年は専科教員とALT・JTEによる実施になりましたが、英語特区により標準時間数より10時間多い実施であったため、学校行事と授業の実施で調整が必要な場面がありました。

■改善のポイント

授業日数の減少による授業時数の確保と学校行事の見直しが課題になっています。ですが、全ての児童が、「学校が楽しい」「学校に行きたい」と思えるようにするため、教育課程や学校行事の充実のため全職員が共通意識を持って努めていきます。また、地域人材や外部講師の活用、地域と連携・協働した教育課程の編成へと見直しを進めていきます。

確かな学力の向上

■児童・保護者アンケートから

学習する楽しさに関する質問では、児童は77.8%、保護者は61.4%の16.4ポイントの差、学習意欲に関する質問では、児童は82.0%、保護者は62.4%と19.6ポイントの違いが出ています。これらは毎年同じ傾向が表れ、保護者の子どもに対する期待の表れでもありますが、その違いを縮められるように、自主学习等の取組や児童の頑張りや保護者に知らせていきたいと思えます。

■自己評価から

コロナが5類に移行後、グループワークや話し合い・教え合い活動や音楽や体育などの制限がなくなり、昨年度からの一人一台端末の活用や指導方法の工夫により、高い評価結果が表れています。

■改善のポイント

2年間の実績を生かし、一人一台端末の活用をさらに進め、児童のやる気を引き出せるような教科指導を工夫していきます。「授業の構造化(やまなしスタンダード)」の取組を継続・充実させ、確かな学力の向上を図ります。「後小ノート」の取組を継続し、一人一台端末の持ち帰りなど、家庭学習の充実・習慣化を進めていきます。

全国学力状況調査やNRTの結果を分析し、学級や児童個人にあった学習指導に取り組んでいきます。

豊かな人間性を育み、心の安定を図る生徒指導

■児童・保護者アンケートから

「明るい気持ちで生活しているか」という質問に対して、児童87.3%、保護者89.9%が肯定的な回答をしています。比較的多くの子ども達が安定して生活していると感じられます。

「名前を呼ばれたら【はい】と返事をしている」という項目は、児童91.0%が肯定している回答が多く、「お子さんは進んで挨拶をしている」に対し、保護者は93.1%とここ数年の保護者の回答としては肯定的な回答が多く、その差が大変縮まりました。

■自己評価から

中間期の評価後、Q-Uや生活アンケートなどの実態調査のデータを生かし児童指導にあたり、職員会後や週末の打ち合わせで児童の情報交換を行ってきたため、課題のある児童に多くの職員が共通理解をして児童対応に当たることができました

■改善のポイント

生活アンケート(いじめアンケート)や児童観察をもとに、児童理解に努め、問題を早期発見したり、保護者との連絡を密にするなどして、全職員で問題解決をしていきます。

学級経営を充実させ、児童同士、児童と教職員のつながりを強くしていきます。日常のあいさつや返事を活発にするための強化週間を設定するなど、児童会と連携して取り組んでいきます。

体力・健康・安全に関する指導の充実

■自己評価から

「保健・安全の配慮」、「生活安全、交通安全、災害安全指導」については、毎回、実現率が高い項目となっています。今年度は「心の健康観察」を定期的に調査し、児童の悩みに対応できる取り組みも進めてきました。水泳やマラソン、なわとび等は、学校行事の中で体力向上の役割を果たしています。避難訓練や防犯教室については、計画通りに安全教育が進められました。

■改善のポイント

今年度の取組を生かし授業や行事を通した体力向上の取組を引き続き行うとともに、災害・事故に備え、「自分の命は自分で守る」意識をもたせる指導を続けていきます。

学校施設の修繕については、毎月の安全点検を元に危険箇所の修繕を行っていきます。また、PTAや学校運営協議会と協力して学校設備の補修や改善を市に陳情していきたいと考えます。引き続き国や県の施策を確認し、熱中症や感染症対策に取り組んでいきます。

開かれた学校づくり

■保護者アンケートから

⑬「ご家庭では学校や子どもの様子を知るようにしている」は99.4%、⑭「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る良い機会になっている」96.3%という回答からも、学校や子どもの教育に対して高い関心をもっていることが分かります。

⑮「家庭との連絡や保護者・地域に丁寧に対応できている」は、92.0%が肯定的にとらえています。しかし、8%の保護者が否定的な回答や「わからない」という回答があるので、学校と保護者と信頼関係がさらに高まるよう努力していかなければならないと考えます。

■自己評価から

「地域素材の教材化・地域社会の人材活用」では、公民館を通し5年家庭科の裁縫に関する協力や2年の親子活動で地域の農業従事者のお話を聞く会を行いました。また、JAの食農教室や篆刻など様々な外部講師をお呼びして授業を行ってきました。それでも地域人材を求めている先生方の意見が集まりました。

■改善のポイント

「地域の人材活用」では、学校で必要な地域人材・指導内容を調査し、学校運営協議会や公民館を通して地域に協力を求め、人材リストを作成していきます。WEBの調査を行い保護者の多くの意見を学校行事の見直しに役立てていきたいです。

教職員としての力量を高め、信頼される学校づくり

■自己評価から

協働体制による学校運営や研修や修養による教職員の資質向上については、昨年度の反省をふまえ、職員が共通理解のもと、協力し合っている姿がうかがえます。全職員が協働して学校づくりに取り組んでいることを、日頃から強く感じています。

保護者との連携では、各担任が、学年だよりや電話連絡・必要に応じて家庭訪問を行って、家庭との連携をしてきています。また、保護者アンケートの結果から、多くの保護者の方々が肯定的に捉えられていますが、今後、より丁寧な説明をしていくことが大切だと思います。

■改善のポイント

学校、家庭、地域が連携して教育を進めるために、相互の情報交換や共有を密にする努力をしていきます。特に、学校からの発信は遅滞なく丁寧伝えていくことで、保護者の方々に信頼される学校づくりを目指します。

教職員一人一人が研究と研修を重ね、教師力を向上させることで、児童の確かな学力の定着と安心して学校に通える学級作り、あたたかい人間関係づくりをこころがけます。

校務の効率化や行事の見直しを試み、職員の多忙化を解消していくことで、子ども達と向き合う時間や資質向上に充てる時間を生み出していきます。